



ココロとココロ
～届け 私たちの思い～

学びたい、という子どものココロ

笑顔をいっぱい浮かべて子どもたちが走り寄ってくる。

「ダダ！ダダ！」「アイダ！アイダ！」
Chemchem ya Amani Tanzania 代表の飯山尚子さんが、タンザニア・モシ県シヨロ地区に設立したKODOMOセンターを訪れるときのいつもの光景だ。飯山さんは年に何度かここにやってくる。…というよりも、帰ってくる。

「ダダ」というのはスワヒリ語でお姉さん、アイダは私の旧姓です。ナオコでは呼びにくいらしく、新しい姓は覚えてくれません」。そう言って飯山さんは笑う。シヨロ地区はモシ県の中でも特に貧しい地域で、ストリートチルドレンになる子どもも多い。

「彼らは住む場所がなく、鉄くずを拾って売ったり物乞いをしたりと、悲惨な生活を送っています。また、家があっても貧しくて学校に通えない子がたくさんいます。でも、学びたいという意欲

もあり、飯山さんの活動拠点は今のところ日本。毎週モシから届くレポートで現地の様子を見守りながら、里親を募り、仲間たちと協力者の輪を広げている。そして、年に何度かタンザニアの子どもたちのもとへ、帰るのだ。

タンザニアと日本をつなぐ夢

「私には特権があるんですよ」と、飯山さんは目を輝かせる。

それは、支援を届けるときに子どもたちのうれしそうな表情が見られること。JICA基金は、そんな子どもたちをサポートするため、有効に使われている。里親の支援だけでは賄いきれない学費や制服代、学用品の購入に加え、KODOMOセンターの教科書やスワ



(左上)大喜びで里親からの手紙を読むアグリビーナ。この後、すぐに返事を書き始めた
(右上)お兄さんに連れられてKODOMOセンターにやってきたトリブ。12歳まで未就学だったが、センターで懸命に勉強した結果、小学校3年に編入できたという。JICA基金による支援で、制服と通学カバンを受け取った
(下)KODOMOセンターでは、職のない母親たちを対象とした手工芸教室も始めた。「より良いものを作り、売り上げを伸ばしていきたい」と、母親たちも意欲的だ

タンザニアの子どもたちに、夢を贈ろう



青年海外協力隊としてタンザニアで活動し、任期が終わった後も現地の子どもたちに教育の場を提供し続けている飯山尚子さん。その活動の中心にあるのが、スワヒリ語で「平和の泉・タンザニア」を意味するNGO「Chemchem ya Amani Tanzania(チムチムヤアミニタンザニア)」だ。



勉強できる喜びを胸に、中学校への進学を目指す子どもたち。その先に、どんな夢を抱いているのだろうか

ヒリ語の辞書、絵本、机などの購入、施設の補修にも充てられた。「ゆっくりとですが、私たちの活動が地域に根付いていっているのを感じています」

ある日、大工をしている兄が未就学の12歳の弟を連れてKODOMOセンターにやってきた。何とか学校に入れ

るすべはないかという。また別の日には、ある姉妹のごとで近所の人たちが訪ねてきた。姉妹には父親がおらず、母親は交通事故に遭って寝たきりだが、二人とも勉強したいという。

開設から3年目を迎えるKODOMOセンターは今、地域の人たちから頼りになる存在として受け入れられている。「相談に乗っていると、貧しい暮らしの中でも、みんなが助け合い、支え合っている」と、つくづく感じます。『豊かな社会』の本当の意味を教えるも

らっているように思います。里親制度では、里親からの手紙も届けられる。受け取った子どもはすぐに返事を書く。タンザニアのココロと日本のココロを結ぶレターだ。「いつか日本を見てみたい」「パイロットになって日本に飛んでいきたい」。そんな夢を抱く子どもも増えているという。



Chemchem ya Amani Tanzaniaが支援するムビンガ県キンディンバ村の小学校で、配布された学用品を手にする子どもたちと飯山さん

Chemchem ya Amani Tanzaniaの活動の様子や団体の詳細は、下記ホームページでご覧になれます。
<http://www.cat.wanakijiji.com/>

「は、みんなが持っているんです」
KODOMOセンターは、無料で利用できる学習施設だ。字を書く、計算をする、教科書を開くなど、ここでの過ごし方は子どもによってさまざま。1日平均30人ほどやってくる子どもたちを、ベラさんとソフィアさんの二人の現地人スタッフがサポートしている。

一方で、飯山さんたちは日本での里親探しも行っている。小学生に年間3000円、中学生には1万円を提供することで就学を支援してもらおうのだ。現在、モシ県と、飯山さんが青年海外協力時代に活動していたムビンガ県の子どもたち計45人を支援しているが、里親の数は足りていない。そんな事情

最近、飯山さんたちは母親を対象にした手工芸教室を始めた。アフリカ特有の布を使ったコースターや、タンザニアビールの王冠を使ったバッジを作って日本で販売し、家計の足しにしてもらおうという狙いだ。それが、やがては子どもたちの就学にもつながる。母親たちも真剣だ。

あなたの小さな一歩から始まる国際協力

世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>